

ふるさと探訪

県指定重要文化財（絵画）

七里ヶ浜遠望図 一面

県指定重要文化財（古文書）

示現寺文書 一八通

所在地 耶麻郡熱塩加納村大字熱塩字熱塩甲七九五番地
所有者 示現寺

示現寺はもと空海が創建し、永和

元年（一三七五）源翁心昭がこれを
曹洞宗に改めて中興開山したと伝え

られる。示現寺文書一八通はこの名

刹の中興開山以後、寛永二十年（一
六四三）保科正之の会津入部に至る
間の文書で、示現寺の中興に関する

もの、蘆名一族三浦太郎丸氏の動向
を知らせるもの、示現寺に対する蘆

名氏の外護と十五～十六世紀の蘆名
氏権力のあり方、地域の農民及び武

士と示現寺との関わり、示現寺の子
院の経済の動きなどが示されてい

る。さらには近世初期の会津領主蒲

生氏郷と秀行、会津藩祖保科正之の
寺領寄進文書もある。

これら示現寺文書は、南北朝期か

ら江戸初期にわたる示現寺及び中世

蘆名氏の歴史を明らかにする多彩か
つ貴重な文書群で、保存状態も良く

極めて重要なものと認められます。

七里ヶ浜遠望図とともに、平成六年三月三十一日付けで県重要文化財に指定されました。

この図は鎌倉七里ヶ浜を遠くから眺めた景色を描いたものです。構図や賦彩からみて西洋画の遠近法と陰影法に習って描かれており、おそらく司馬江漢の寛政八年（一七九六）の制作による「相州鎌倉七里浜屏風」や「七里ヶ浜図」、「富獄遠望図」などの作品の影響を受けたものと思われ、その制作時期は田善の江戸滞留時代（寛政十年（一七九八）～文化十一年（一八一四）頃）の早い時期

と見られる。

この図における田善の西洋画法の習熟度は、種徳美術館所蔵の「七里ヶ浜図」が写実に富んでいるのに比べて、遠景の遠くの細かい海岸や、代官やさむらの建物の遠近感などは、田善の修学期における試行的な肉筆洋風画の作品として作風展開の上で占める絵画史的意義は大きいものがあります。

なお、田善は寛延元年（一七四八）に岩瀬郡須賀川（現・須賀川市）に生まれ、文政五年（一八二二）同地で没しています。

